

## 蒲生海岸におけるコアジサシの繁殖について

蒲生干潟自然再生協議会事務局

### 1. コアジサシについて

- コアジサシはチドリ目カモメ科アジサシ属に分類され、全長 24cm、翼開長約 53cm で胸から腹部にかけて白く、上面が薄い灰色をし、翼と尾がとがっている鳥です。

(図 1、図 2)

- コアジサシは本州以南に夏鳥として渡って来て、海岸や河川敷で繁殖します。
- 宮城県は繁殖分布の太平洋側北限になっています。日本海側は秋田県です。
- 種の保全状況評価として、次の指定がされています。
  - 環境省－絶滅危惧Ⅱ種 (VU)
  - 宮城県－絶滅危惧Ⅱ種 (VU)



図 1 飛翔するコアジサシ



図 2 地面に降りたコアジサシ

### 2. 蒲生海岸のコアジサシ

蒲生海岸では 1980 年代に繁殖が観察され、2006 年までは営巣していました

が産卵しても高潮により埋もれる、流される、カラスや動物に卵を取られる、などが続き、コアジサシは営巣場所として蒲生海岸を選択しなくなりました。その後、仙台港後背地造成地や閑上海岸での営巣が観察されましたが、宮城県への渡来が少なくなり、営巣も記録されなくなりました。

- 2016 年 5 月 22 日、1 羽の飛来を確認しました。しかしこの年は 1 羽だけでした。
- 2017 年、2018 年と観察されませんでした。
- 2019 年 6 月 19 日、コアジサシ 3 羽の飛来を確認しました。

2019 年 7 月、1985 年以来 34 年ぶりの孵化そして 2 羽が巣立ちました。

- 2020 年 6 月 13 日、導流堤工事で発生した砂山の北側で 3 つがいの営巣が確認できました。カメラマン 3 名がここに付いていました。

2020 年 7 月 19 日、ゴルフ練習者が営巣地に入ったため、コアジサシから執拗にモビング（防衛攻撃）



図 3 巣立ちしたコアジサシのヒナ

されていて、棒やクラブを振り回し追い払っていました。この年、7月18日に孵化し、ヒナが1羽巣立ちました。

- 2021年3月、導流堤工事終了時に、工事で発生した砂山を、コアジサシ営巣誘致のため、台地形状にやらしてもらいました。また、4月18日、この造成砂山周囲にコアジサシの保護看板を「蒲生干潟自然再生協議会事務局」として10本設置しました。(図4)



図4 造成砂山の前に設置した保護看板

4月21日コアジサシの飛来を確認し、最大数は5月13日の約40羽でした。カメラマンが砂山の上を歩き、巣やヒナを探している様子が確認できました。6月18日、ヒナが3羽孵化しましたが、カラス、キツネによる捕食のため巣立ちまでに至りませんでした。本年の営巣場所は砂山の上面だけでなく周囲でも確認(1巣)できました。

- 2022年4月17日、コアジサシ保護看板を前年同様、造成砂山周囲に10本設置しました。

4月28日、コアジサシ3羽が造成砂山にて休憩を本年初めて確認しました。最大個体数は7月5日、ハヤブサがコロニーに来た時一斉に飛び立ち、この時のカウント総計が約40羽で、この時を最大数としました。

営巣数は、巣立ち1巣、孵化するも巣立ちまで至らずが3巣、抱卵するも孵化まで至らずが1巣の5巣を確認しました。このうち、巣立ったのは7月20日に1羽だけでした。

環境変化として7月13日に100mmを超える降雨あり7月15日、7月22日にも30mmを超える降雨があったことから育雛にこの影響もあったと思われました。大雨のあと7月24日にはヒナは確認できませんでした。

- 2023年4月8日、コアジサシ保護看板を前年同様、砂山周囲に10本設置し、さらに南と東側の一部に立ち入り制限用のトラロープを張りました。

4月22日、今期、コアジサシを初めて確認しました。

4月29日、コアジサシ20羽ほどを確認しました。5月3日、砂山に1羽、飛翔が3羽とまだ定着していないようでした。

5月28日、このところコアジサシの情報がありませんでしたが本日確認できました。約10羽で、造成砂山南側下に抱卵姿勢中2つがい、砂山上で交尾1ペアが観察できました。しかし、カメラマンが立ち入り制限トラロープの間際にいるコアジ



図5 巣に接近するカメラマン

サシに接近していました。その後、5月31日にコアジサシは見当たらなくなり、結局2023年は蒲生海岸では繁殖しませんでした。

この年の6月、県の南部、亶理町の海岸に34羽が渡来営巣し、巣立ちまで観察されました。

蒲生海岸では、造成砂山の下の礫地で営巣が試みられましたが、抱卵に至りませんでした。人による圧力と共に営巣誘導としての造成砂山の上面は2023年頃から草が生えてきて、この環境がコアジサシの営巣地として選択されなかったと考えられました。



- 2024年、蒲生海岸でコアジサシの飛来は確認されていません。

図6 造成砂山の草の状態  
(2024/5/25 撮影)

### 3. まとめ

- ・ 宮城県に渡来するコアジサシは牛橋河口から鳥の海、閑上の海浜を行き来して5月下旬までに自分の営巣地を選定すると考えられます。
- ・ 蒲生海岸に整備した造成砂山は、高波からの営巣地保護や人の立ち入り管理の観点から意義があったと考えられますが、一方で外敵であるキツネやタヌキ、カラスを集めやすい結果となりました。トラロープの設置は人の立ち入りを抑制する効果がありました。
- ・ 造成砂山の上面は高波による浸潤がないため、草が生えやすく、礫地裸地を好むコアジサシの営巣適地を維持するために今後は除草などの整備が必要と考えます。